

令和元年度（2019年度）

第59回大会

男子優勝：立命館慶祥

女子優勝：札幌光星

【全道大会寸評】

第59回となる北海道高等学校テニス選手権大会は、6月11日から14日の4日間、苫小牧市緑ヶ丘公園庭球場で開催されました。会場には、テニスコートが20面ありますが、1面が使用出来ない状態で、大会を通して19面を使用して行いました。

やや気温は低めではありましたが、天候にも恵まれ、予定通りの日程で行うことが出来、選手は最後まで力を振り絞ってプレーしていました。

大会を通して、当番校の苫小牧工業高校の教職員や生徒のみなさんをはじめ、室蘭支部の各高校のテニス部員や顧問の先生方のご尽力のおかげで、無事大会を終えることができましたことを、心から感謝申し上げます。

団体戦は男子女子ともに、札幌支部大会から継続して力を発揮した第1シードの、男子は立命館慶祥高校、女子は札幌光星高校がともに悲願の初優勝を成し遂げました。ここ数年は札幌勢の活躍が目立っていますが、各支部においても着実に力をつけている高校・選手もいますので、来年以降もその力が発揮できることを期待したいです。

男子ダブルスは第1シードの藤川・清水組（立命館慶祥）が第2シードの鎌田・山澤組（札幌藻岩）に勝利し優勝に輝きましたが、藤

川・清水組は2年生ということもあり、今後の活躍が楽しみでもあります。女子ダブルスも第1シードの坂尻・菊地組（札幌光星）が危なげのない試合運びで、同じく第1シードで臨んだ昨年の準優勝の雪辱を果たし優勝しました。

男子シングルスは第2シードの藤川侑志郎（立命館慶祥）が団体戦、ダブルスの勢いそのままの力を発揮して初戦から安定した試合運びを続け初優勝に輝きました。見事に令和初の3冠達成で、輝かしい快挙となりました。女子シングルスでは、昨年まで2年連続の準優勝であった照井妃奈（札幌啓成）が、安定感のある試合運びで決勝戦まで進み、初優勝が掛かる重圧の中でも、粘り強いプレーで食らいつく相手にも、冷静に対応し、悲願の優勝を果たしました。昨年のインターハイベスト8の成績を越えられるのか楽しみであります。また、今年度は女子シングルの代表枠が5となり、激しい5位決定戦が行われました。

今大会は、団体戦と個人戦を合わせて男女ともに4校が全国大会の切符を手に入れました。

宮崎県宮崎市での全国高校総体は、季候的にも暑く、非常に厳しい熱い戦いとなることが予想されますが、団体戦個人戦ともに上記各選手の全国高校総体での活躍を期待します。

（道専門委員長 川口 浩史）

【全国大会寸評】

「響かせろ我らの魂 南の空へ」のスローガンのもと、南部九州総体が8月1日～8日の日程で南国宮崎で開催された。KIRISHIMA ヤマザクラ宮崎県総合運動公園庭球場 24 面をメイン会場に、宮崎市生目の杜運動公園 16 面をサブ会場、そして宮崎市清武総合運動公園 12 面の公式練習会場、他にもインドア・アウトドア数多くのテニスコートを備える環境に何度も「羨ましい」とため息交じりの言葉が出た。

競技は団体戦から開始。男子代表立命館慶祥の初戦の相手は駿台甲府（山梨県代表）。1 回戦を勝ち抜いて勢いのある相手に対し、いつもの巧みさ強かさが見られない道代表。結果 0-3（D:2-8,S1:1-8,S2:5-8）の完敗も、S2 で戦った1年生高野の諦めない粘りが印象に残る。女子代表札幌光星は期待に違わぬ奮闘ぶりを見せた。初戦近大和歌山戦は、鉄板オーダーで 3-0（D:8-2,S1:8-5,S2:8-1）完勝。続く3回戦は、シード校野田学園（山口県代表）。準優勝したチームのダブルスの巧さが強く印象付けられた戦いとなったが、S1 駒目①が相手エースと対等に打ち合い、応援する者を十分熱くさせてくれた。

昨年の活躍が記憶に残る個人戦。試合前から自然と期待が高まる。しかし、それを大きく上回る驚愕の結果が待っていた。男子シングルスは、藤川②（立命館慶祥）と板本③（札幌西）が2回戦まで進んだが、新山②（開成中等）と鎌田③（札幌藻岩）、ダブルスの2ペア、藤川・清水②（立命館慶祥）鎌田・山澤①（札幌藻岩）は1回戦敗退。女子シングルスは、坂尻③（札幌光星）澤田③（北星女子）菊地③（札幌光星）の3名が2回戦進出。そして、前年のベスト8を越えるべく第5シードで臨んだ照井妃奈③（札幌啓成）が、頂点に向け快

進撃を見せる。全カテゴリーを通じて大会史上初めて、優勝旗を北の大地に持ち帰る快挙を果たしたのだ。

1回戦から QF まで、決して楽な戦いはなかった。寧ろ、何と無く波に乗れていないというカリズムを掴みきれていないようにさえ見えた。しかし大会最終日、SF を迎えると「今大会の目標」と言っていた難敵へ向けスイッチ ON。フラット気味のショットを左右に打ち分け、抜群のタイミングでダウンザライン。徐々に第1シード神鳥（早実・東京）の闘争心を削り、8-5 で目標達成と選抜のリベンジを果たした。続く決勝は埼玉代表浮田（秀明英光）。コート上を走り回る小さな姿に、周囲の期待は MAX。強打の応酬の結果、最後は流れを引き寄せた照井が 8-4 のスコアで栄冠を掴んだ。女子ダブルスは、照井・松山③ペアが第4シードとして戦ったが、2回戦で岡山県代表に敗退。もう一ペアの坂尻・菊地も、地元宮崎県代表と戦い1回戦敗退に終わった。

猛暑対策・台風対応で試合方法及び審判方法が変更になった今大会。ゲームへの集中が難しいにも関わらず最後まで盛り上げてくれた選手、そして大会関係者に感謝。今までは全国大会出場を目指していた我らが北海道勢に対して、勝つことを目指して欲しいと2023年に向けて思いを強くする大会となった。

全国高校総体 (令和元年度 全国高等学校総合体育大会テニス競技
第 109 回全国高等学校テニス選手権大会)

宮崎県宮崎市

(感動は無限大 南部九州総体 2019)

8 月 1 日～8 日 KIRISHIMA ヤマザクラ宮崎県総合運動公園庭球場
宮崎市生目の杜運動公園テニスコート
宮崎市清武総合運動公園テニスコート

男子 個人戦シングルス 優勝 : 藤原 智也 (京都 : 東山)

女子 個人戦シングルス 優勝 : 照井 妃奈 (北海道 : 札幌啓成)